

第 130 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

平成 28 年 11 月 4 日
関西支部長 福喜多俊夫
作 成 真野仁孝

開催日時：平成 28 年 10 月 28 日（金）

《研究会》18：00～19：20 《懇親会》19：30～20：30

開催場所：大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」

《研究会》2F 研修室 《懇親会》1F 大広間

出席者：総数 23 名

- ◆研究会：福喜多支部長が体調不良のため欠席につき、前田副支部長が代理で挨拶された。
研究会の最後に、今回初参加の佐々木氏と小森氏の 2 名から自己紹介して頂いた。

◆講演会：

演題：「RFID の活用動向とロジスティックスについて」

講師：宮本一隆様 宮本経営技術士事務所 代表、当会本部理事（広報担当部会長）

1. 我々を取り巻く環境

IoT(Internet of Things)とは全てのものがインターネットで繋がるという概念で、製造業において活用した場合、製造ライン上の製造機械などの現在の状況がほぼリアルタイムで把握でき、さらにはサプライチェーンの状況全体を一度に把握することも可能となる。IoT は 2020 年に 200 兆円規模の経済価値を創出すると予測され、製造業では工場でのデータ活用や自動運転等を含め新付加価値創造としての重要な概念で、ドイツやアメリカの戦略的な取組み対し、日本も推進組織を立ち上げ、技術開発、標準化等に取り組んでいる。

2. RFID についての整理・振り返り

RFID(Radio Frequency Identification)とは誘導電磁界又は電波によって半導体メモリのデータを読み出し書き込むための近距離通信を行うものの総称で、ID 情報を埋め込んだ RF タグから無線通信によって情報をやり取りするもの及び技術全般を指す。特に UHF 帯 RFID は物流・流通での活用に適するため、着実に実用化が進んでいる。

3. GS1/EPCglobal 標準化の動向

GS1(Global Standard one)は複数の地域にまたがるサプライチェーンの効率化と透明性を高めるための国際標準の設計・策定・ISO への提案を行っている国際組織である。

EPC(Electronic Product Code)とは GS1 で標準化された電子タグに書き込むための識別コードの総称をいう。識別コードの一例として、シリアル番号付き商品コード[®] (SGTIN) があり、「物品個別の識別」を可能とする。

さらに、ロット情報、賞味期限等の属性データについても規格化している。

これら識別コードを基本とした EPCIS 構想にて、サプライチェーン上の個体（製品、原料、包材、資材等）の一元管理が可能となる。

4. RFID に関する標準化

UHF 帯 RFID に関する ISO 規格の中の「ものの識別子 (DI/AI)」には ISO 様式と GS1 様式があり、前者は流通・物流以外の産業分野で、後者は流通・物流分野で活用が進んでいる。GS1 では、流通・物流分野での標準化の普及が先行するため、上記のような事象が発生している。

5. RFID 活用事例

RFID を活用した事例として、「本物と模造品を識別する“真贋判定サービス”」や「折り畳みコンテナやカゴ車、カートラックなどの搬送容器の所在や在庫状況の把握を可能にした“物流向け搬送容器管理システム”」等の活用事例の説明があった。

最後に、発表後において活発な質疑応答があり、RFID について理解を深めることが出来ました。

◆懇親会：

10 月 28 日（金）19:30～20:30 出席者：22 名 松心会館 大広間
岡田支部相談役の乾杯の音頭で開会し、本山会員の中締めで閉会した。

◆第 131 回研究会予定

2016 年 12 月 8 日（木）：松心会館 2F「3」

講師として平会員より、「商業用液化水素製造開始までについて」お話を頂きます。
尚、講演後は今年を締めくくる忘年会を開催いたします。

《新カメラで未習熟の為、不鮮明の件お詫び致します》



講演を頂く宮本理事様



受講風景



新参加者の小森様（左）
佐々木様



乾杯の音頭をとる
岡田支部相談役



懇親会風景



中締めをする本山様